

県高校将棋選手権団体戦で加古川北快挙 初出場で公立勢トップに

尼崎市で開かれた第48回県高校将棋選手権大会の団体戦で、加古川高校（加古川市野口町水足）の囲碁・将棋部員で1年の芝原功輝さん（15）と迫川広行さん（15）が初出場でも4位、公立勢ではトップに躍り出た。団体戦は3人1組で競うが、同校ではメンバーがそろわず、2人はハンディとして不戦敗の1敗を背負いながら挑戦。上位2校は全国切符も手にできただけに、「とても悔しい。次こそ全国大会に出たい」とリベンジを誓う。

（千葉翔大）

1年の芝原功輝さんと迫川広行さん



初出場でも県高校将棋選手権大会4位となった芝原功輝さん（左）と迫川広行さん（右）加古川北高校

メンバーそろわず 不戦敗1敗のハンディも4位

2人はいずれも祖父の影響を受けて将棋を始めた。芝原さんは小学2年、迫川さんは同5年から、加古川市在住でプロ棋士の井上慶太九段が主宰する将棋道場「加古川将棋倶楽部」で腕を磨いてきた。現在も部活に加え、休日には将棋道場にも通っているという。

大会は5月4日にあり、県内から20校、計28チームが出場。8ブロックに分かれた。総当たりの予選に臨んだ。2人は「予選は突破したが、どちらかが敗れば、

たのはちょっとした話題になった」。周囲の下馬評を覆す快進撃だった。準決勝の相手は強豪、灘高校（神戸市東灘区）のAチーム。芝原さんは勝ったが、迫川さんは一歩及ばず、「灘と聞き、精神的な部分で一步引いてしまった。積極的に攻めたけど、その隙を突かれて気付いたらピンチになっていた」と振り返った。

全国大会には届かなかった。

「次こそ全国出場を」

「たいな」と話し合っていたという。結果は3戦全勝。芝原さんは「緊張してミスもあったけど、冷静に守りと攻めをバランスよく展開できた」と振り返る。

決勝トーナメントには各ブロックの首位が進む仕組みで、同校は初戦、メンバー全員が3年生でそろった白陵高校（高砂市）Aチームと対戦した。波に乗った2人は、ここでも勝利。囲碁・将棋部顧問の梶尾良大教諭（38）は「顧問が集まる控室で、2人が初戦を突破し

すぐに敗退という不利な状況下で堂々の高校デビュー戦を飾った。梶尾教諭も「上級生と切磋琢磨し、部活全体のレベルアップにつながってほしい」と期待する。

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、大会終了後、部活動は休止している。それでも、芝原さんは「悔しい思いを晴らせるように、得意の戦法を磨いていく」。迫川さんは「手ごわい相手にも気後れせずに戦えるよう、精神的な成長も目指す」と話した。